

2020 年 3 月 18 日



各 位

長野県北安曇郡白馬村大字北城 6329 番地 1
会社名 日本スキー場開発株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平
(コード番号: 6040 東証マザーズ)
問合せ先 財務経理本部長 佐藤 祥太郎
電話番号 0261-72-6040

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時	2020 年 3 月 9 日 15:30～16:30
開催方法	対面による実開催
開催場所	千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング9 階 新丸ビルコンファレンススクエア Room902
説明会資料名	2020年7月期 第2四半期決算説明資料

【添付資料】

決算説明会において使用した資料

2020年7月期 第2四半期 決算説明資料

2020年3月9日(月)

長野県北安曇郡白馬村大字北城6329番地 1
日本スキー場開発株式会社
(証券コード：6040)



1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. 成長戦略

P. 17

4. Appendix

P. 24

1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. 成長戦略

P. 17

4. Appendix

P. 24

【PL】

✓ 過去最高の売上高を達成

【グリーンシーズン】

＋) 岩岳の来場者が85%増加(マウンテンハーバーが前期10月OPENのため当期8月、9月純増)

－) 台風19号による悪影響：竜王、八方、岩岳、栂池

【ウィンターシーズン】

＋) 小雪対策投資と来場者数増：竜王、川場、菅平

＋) 単価向上：竜王、八方、岩岳、栂池、めいほう

－) コース拡大できず来場者数減：鹿島槍、岩岳、八方、栂池、めいほう

✓ 保有資産の合理化

- ・ のれん償却費減少。子会社の固定資産売却による特別利益の計上と劣化施設の除却を予定

【BS】

✓ 財務状況（成長投資に向けた財務ステータス）

- ・ 2,104百万円のネットキャッシュポジション
- ・ 純資産比率は74%を超え、借入余力有

✓ 小雪対策・グリーンシーズン事業投資（天候リスクへの対応）

- ・ 小雪対策投資：48百万円
- ・ グリーンシーズン事業投資：38百万円

- 前年対比：売上高は過去最高。営業利益は過去2番目の水準(*)
- 計画対比：2019年10月の台風19号及び暖冬小雪の影響を受けるが営業利益等は上振れ
- 子会社の固定資産譲渡により、第1四半期に特別利益264百万円を計上

【PL】

(単位：百万円)

	19/7期 2Q	20/7期 2Q	増減	前期比	20/7期 2Q 当初計画(*)
売上高	3,187	3,208	21	100.7%	3,430
営業利益	157	200	42	127.2%	170
経常利益	158	202	44	128.3%	160
当期純利益	114	356	241	311.0%	80
EBITDA	416	471	54	113.2%	442
運営スキー場数	8ヶ所	8ヶ所	-		

【来場者数】

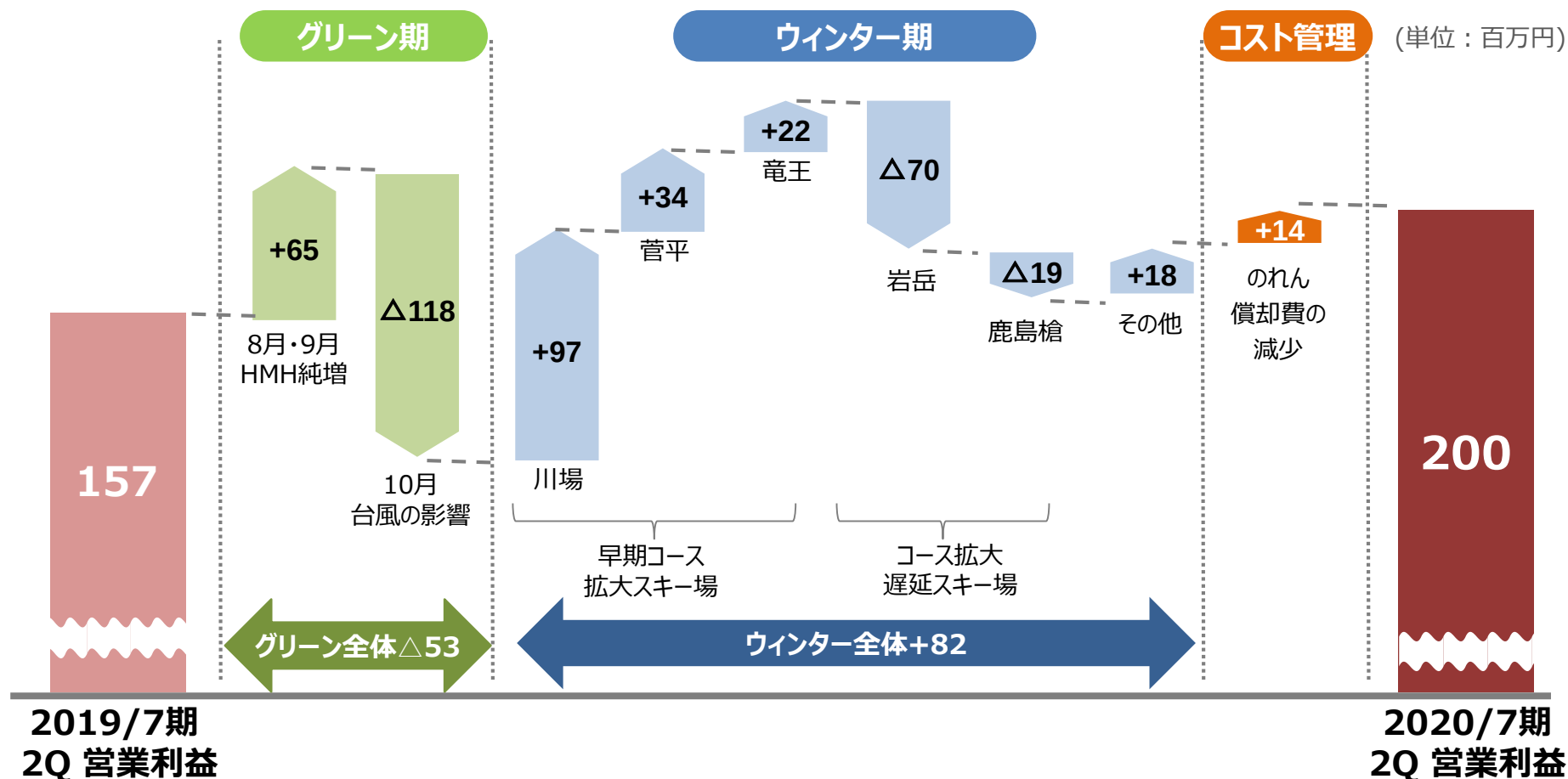
(単位：千人)

ウィンター	738	691	△ 47	93.6%
グリーン	247	269	22	109.0%
来場者合計	986	961	△ 24	97.4%

※2015年10月のめいほう期中M&Aによるイレギュラー値を除くと過去最高
2019年12月6日に業績予想の修正を行っております
EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

20/7月期 2Q 営業利益増減明細

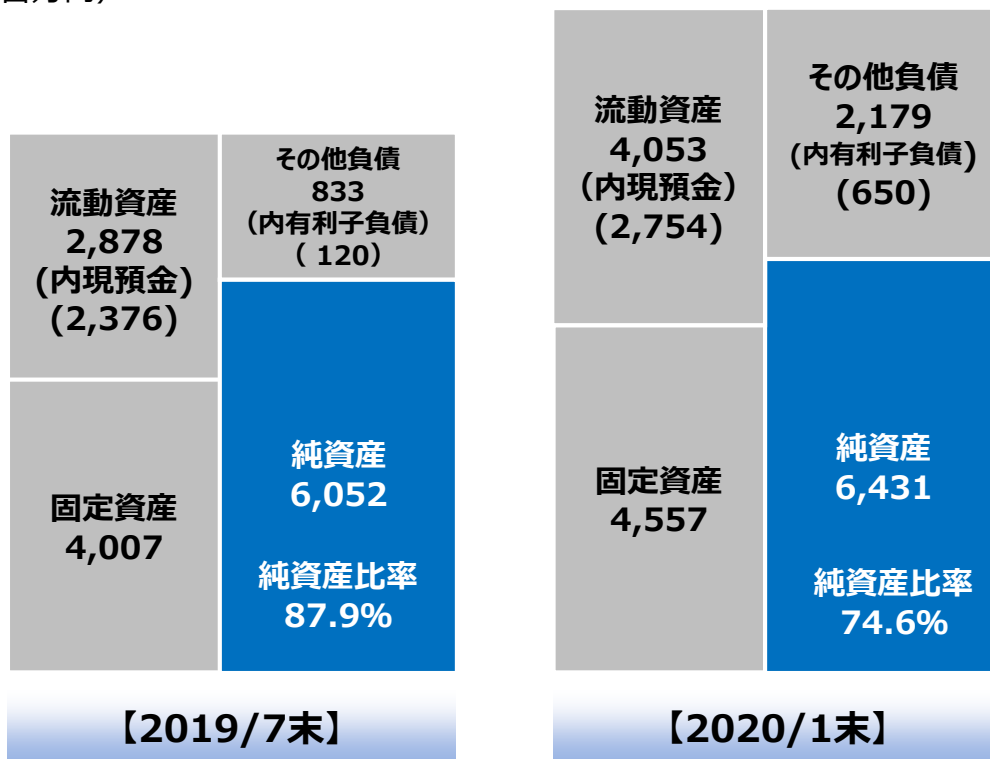
- グリーンシーズンは前期2018年10月にオープンした岩岳のHakuba Mountain Harbor(HMH)が当期8月、9月純増。しかし10月は台風19号及びその後の旅行キャンセル等の影響を受ける
- ウィンターシーズンは川場、菅平、竜王が早期にコース拡大でき好調。岩岳は山麓エリアまでの下山コースが繋がったのが2月8日と大幅に遅れ来場者大幅減



- 純資産比率74.6%。投資余力維持し、借入余力も残す
- キャッシュポジションは、2,104百万円のプラス

バランスシートの状況

(単位：百万円)



- ✓ 小雪投資・リフト更新投資を継続的に実施
- ✓ 事業シーズンナリティ縮小のため、グリーンシーズンの投資を継続的に実施

※ウィンターシーズン本格化のため、純資産比率は対前期で悪化
2019/1末は73.6%

1. 決算概要

P.3

2. 施設別状況

P. 8

3. 成長戦略

P. 17

4. Appendix

P. 24

19-20シーズンのオープン状況

- 暖冬小雪により全国的にクローズするスキー場が多い中、グループスキー場はこれまで行ってきた小雪対策投資により概ね前年並みのオープン
- 今後も各スキー場で小雪対策投資を継続する方針

運営スキー場名	2018/7期	2019/7期	2020/7期	前期対比	
白馬八方尾根スキー場(HV*)	11月21日	12月15日	12月6日	9日早い	★
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	12月 9日	12月21日	12月31日	10日遅い	★
柵池高原スキー場(HV)	11月25日	12月15日	12月16日	1日遅い	
鹿島槍スキー場(HV)	12月10日	12月15日	12月14日	1日早い	
竜王スキーパーク	11月23日	12月 2日	12月1日	1日早い	★
川場スキー場	11月25日	12月 3日	12月6日	3日遅い	★
めいほうスキー場	12月 9日	12月15日	12月9日	6日早い	★
菅平高原スノーリゾート	12月2日	12月10日	12月7日	3日早い	★

★ 小雪対策投資実施スキー場
(*)HV : HAKUBA VALLEY

ウィンターシーズン 全体来場者数

- スキー場全体の来場者数は昨対比6.4%の減少
- 周辺スキー場のオープンが遅れる中、降雪機投資を継続していた川場、菅平、竜王が好調。めいほうも自然降雪は僅かであったが人工降雪により来場者を確保

ウィンターシーズン来場者数

(単位：千人)

運営スキー場名	2019/7期 2Q	2020/7期 2Q	前期比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	174	154	88.8%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	48	19	39.4%
拇池高原スキー場(HV)	126	108	85.2%
鹿島槍スキー場(HV)	45	41	89.8%
竜王スキーパーク	86	90	104.6%
川場スキー場	56	74	133.5%
めいほうスキー場	79	70	88.6%
菅平高原スノーリゾート	121	133	109.4%
スキー場計	738	691	93.6%
その他（かわばんち、おに助他）	5	6	106.1%
合計	744	697	93.7%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

ウィンターシーズン 各スキー場のインバウンド来場者数

- 白馬エリアでは最もコースの拡大ができた拇池が増加
- 八方は山麓エリアのコース拡大が遅れ、岩岳は全体的にコース拡大できず減少。HAKUBA VALLEY10スキー場のうち、コース拡大ができたスキー場にインバウンドが集まる
- めいほうは高山市への自社バス運行により、インバウンドは約1.5千人まで増加(前年約0.2千人)

スキー場別 インバウンド来場者数

(単位：千人)

スキー場	17-18シーズン	18-19シーズン	19-20シーズン	インバウンド比率	前年比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	80	84	75	48.9%	89.7%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	7	12	3	15.8%	23.5%
拇池高原スキー場(HV)	16	22	26	24.4%	116.6%
鹿島槍スキー場(HV)	0	0	1	3.1%	146.1%
白馬エリア合計	104	120	106	32.9%	88.2%
竜王スキーパーク他3スキー場	2	2	5	1.6%	271.2%
合計	107	122	112	16.2%	91.4%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

HAKUBA VALLEY10スキー場全体の12月・1月のインバウンド来場者数は190千人(18-19シーズン)、208千人(19-20シーズン)

ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

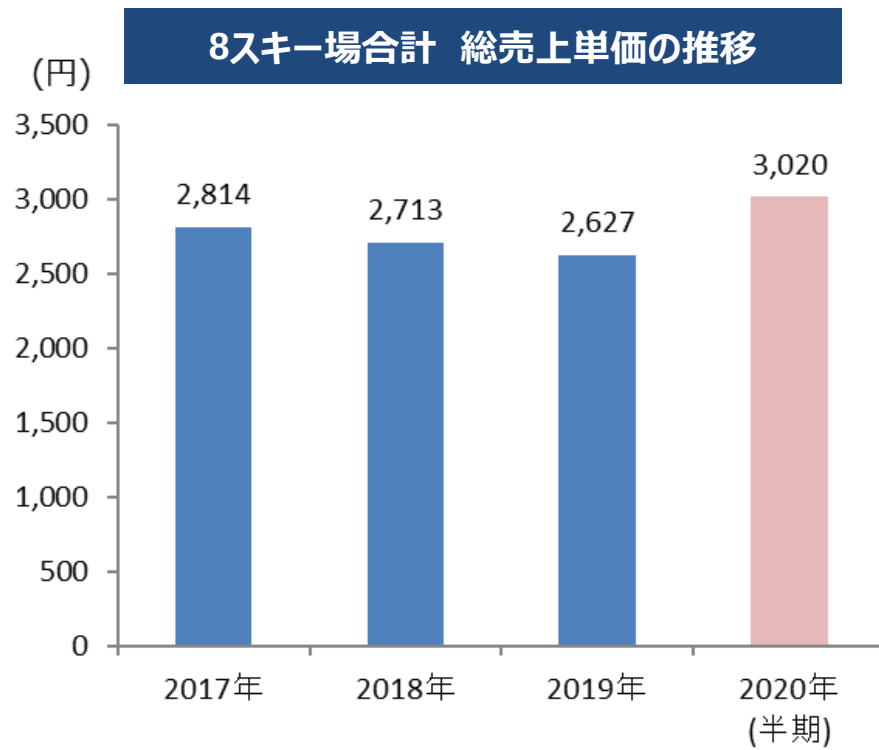
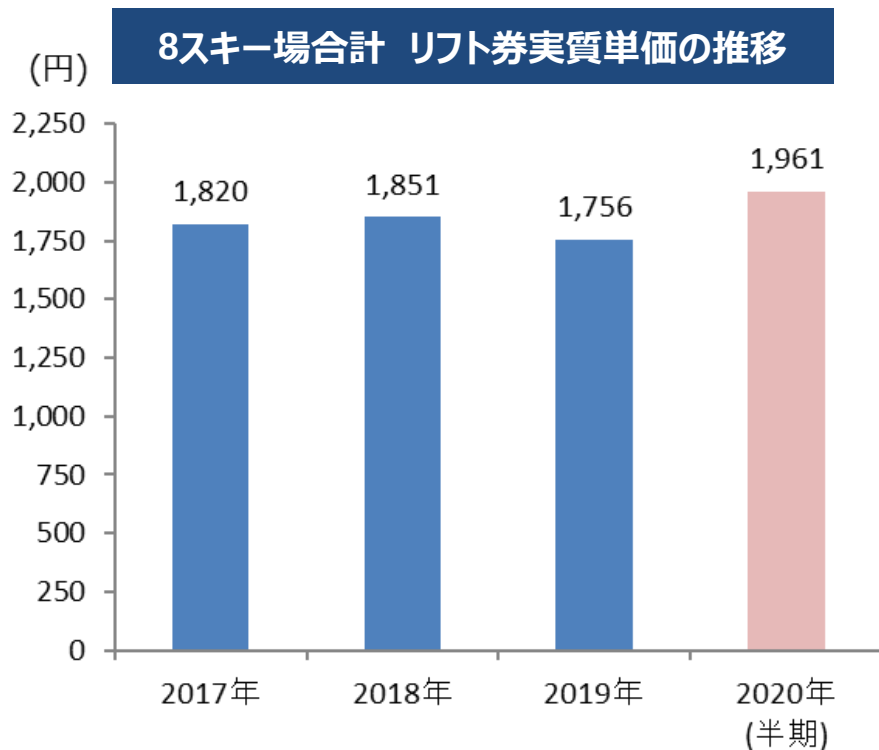
- ツアー会社利用チャンネルはオープンが遅延したスキー場からの送客もあり前年比増
- 窓口チケット販売の下げ幅は2.3%に止まり、早期にコース拡大ができた川場、竜王、菅平に一般利用の顧客が集まる
- 地元旅館宿泊券は年末年始も雪が不足していた白馬エリアが減少

ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

(単位：千人)

チャンネル	2019/7期 2Q	2020/7期 2Q	前期比
窓口チケット販売	297	290	97.7%
ツアー会社利用	102	104	101.3%
地元旅館宿泊	79	62	79.0%
シーズン券	69	63	91.7%
前売券・コンビニ券	57	55	94.9%
団体・修学旅行	89	84	93.9%
キッズパーク・未就学児	14	9	60.3%
その他	31	25	81.4%
合計	738	691	93.6%

- 川場スキー場の来場者数増加が全体の単価向上を牽引
- めいほう、竜王ではインバウンド及び団体のレンタル利用や、料飲メニューの改善により付帯事業の単価も上昇
- 八方、栂池でも自社施設の利用が増加し単価上昇



グリーンシーズン 全体来場者数

- 自社運営施設では過去最高の来場者数となった
- Hakuba Mountain Harborにより岩岳が+185%(前期10月オープンのため当期8月、9月純増)
- 紅葉のピークとなる2019年10月は台風19号及び台風後の旅行のキャンセル等による集客減と週末での悪天候が重なり、全体の来場者数は10月単月で前年対比28千人(37.5%)の減少

グリーンシーズン 施設別来場者数

(単位：千人)

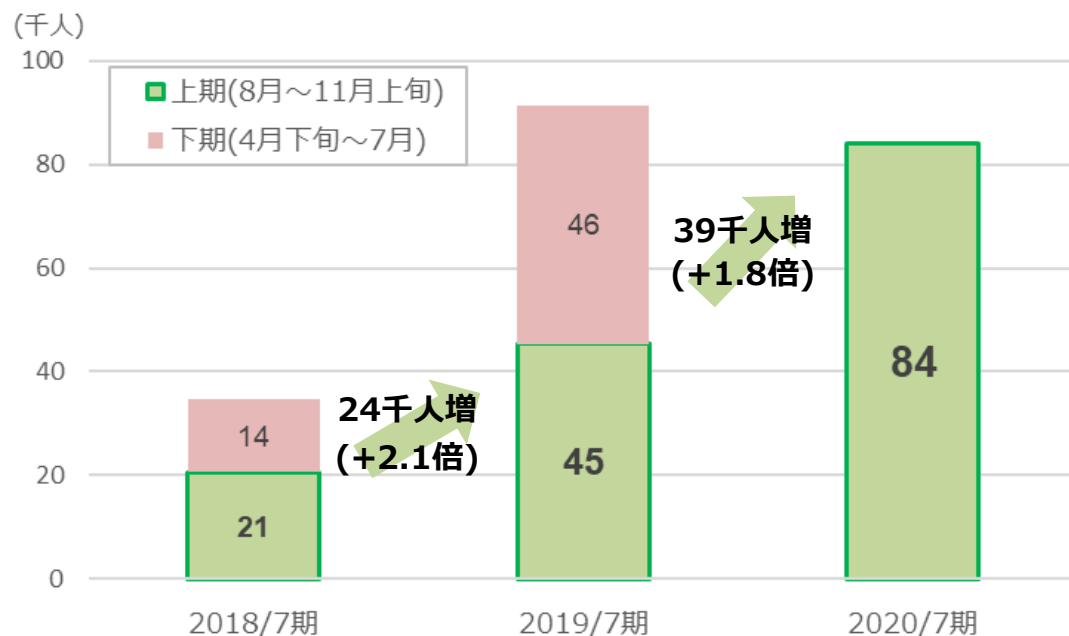
施設名	2019/7期 2Q	2020/7期 2Q	前期比
国際山岳リゾート白馬八方尾根(HV*)	69	65	95.0%
白馬岩岳マウンテンリゾート(HV)	45	83	185.2%
拇池高原(HV)	57	56	96.8%
竜王マウンテンパーク	74	63	85.3%
小計	247	269	109.0%
鹿島槍スポーツヴィレッジ	6	6	104.6%
めいほう高原	24	25	105.3%
川場リゾート	15	14	96.8%
合計	293	316	108.0%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

白馬岩岳マウンテンリゾートの来場者状況

- 2018年10月にオープンしたHakuba Mountain Harborは好調を維持
- ヨガレッスン等体験イベントの定期的な開催や、地域の様々なワインや食事を楽しむことができる信州ワインサミット等の大型イベントを開催し集客獲得
- グリーンシーズンの営業によりウィンターシーズンの天候リスクをカバーできる体制を構築

白馬岩岳 グリーンシーズンの来場者数



(参考)2020年2月来場者数 ※3/6開示

- 2月も川場が好調。柵池が全面滑走可能となり白馬エリア内で優位性を発揮
- 来場者合計は前年を下回るが、売上高は前年を超過

ウィンターシーズン来場者数(2月単月)

(単位：千人)

運営スキー場名	2019年2月	2020年2月	前期比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	125	97	77.1%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	52	25	49.1%
柵池高原スキー場(HV)	92	101	109.1%
鹿島槍スキー場(HV)	31	30	98.0%
竜王スキーパーク	73	71	97.3%
川場スキー場	44	57	129.6%
めいほうスキー場	67	67	99.7%
菅平高原スノーリゾート	82	78	95.6%
スキー場計	570	530	92.9%
その他（かわばんち、おに助他）	2	3	112.2%
合計	573	533	93.0%

(*)HV：HAKUBA VALLEY

1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. 成長戦略

P. 17

4. Appendix

P. 24

気候変動リスクに対応した経営基盤を作るとともに、
増加余地の大きいインバウンド誘客を継続

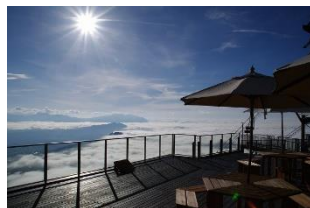
小雪対策

- ◆ 人工降雪機投資を継続し、小雪シーズンでもウィンタースポーツを楽しめる環境を提供
- ◆ 冬季収益の安定化



グリーンシーズン

- ◆ 冬季偏重の事業構造からの転換
- ◆ 地域の素晴らしい資産を再発見し、その価値を多数のお客様に提供



インバウンド

- ◆ 世界中から訪問されるリゾートを目指し、人口減でも伸びるスキー場に
- ◆ アコモデーション不足も地域と連携し解決を図る



成長戦略 ～小雪対策投資・グリーン期投資～

- 過去最低水準の暖冬小雪であった15-16シーズンより、小雪対策投資を強化
- また、事業のシーズンリティを小さくするため、グリーン期事業への投資も継続

15-16シーズン 19-20シーズン比較表

	冬期来場者数 (12,1月 千人)		冬期オープン日		小雪対策投資 (百万円)*	グリーン来場者数 (上期)		グリーン期 投資(百万円)*
	15-16s	19-20s	15-16s	19-20s	15-16s以降	15-16s	19-20s	15-16s以降
八方	162	154	12/4	12/6	118	78	65	62
岩岳	24	19	12/18	12/31	47	21	83	169
柵池	127	108	11/28	12/16	0	64	56	121
鹿島槍	50	41	12/12	12/14	0	10	6	0
北志賀竜王	100	90	12/4	12/1	23	16	63	75
川場	42	74	12/8	12/6	26	24	25	0
めいほう	54	70	12/29	12/9	139	6	14	2
菅平	121	133	12/11	12/7	18	-	-	-
合計	684	691	-	-	370	226	316	429

**15-16シーズン
上期営業利益
6百万円**

**19-20シーズン
上期営業利益
200百万円**

*新規施設・設備への投資のみを集計し、既存施設・設備の修繕等は含まない

- 小雪の影響を受けやすく、単価の高いスキー場から降雪機を順次増強
- めいほうの12月の自然降雪は20cm程度であったが、降雪機の稼働により一定の集客を獲得
- 今後も小雪対策投資を継続し、気候変動に対応した経営を行う

川場降雪機



- 山麓エリアまでのコース拡大可否により集客力に大きな差が出る
- 多雪のシーズンでも人工雪が根雪となり、シーズン延長にも貢献
- 降雪機投資の可否が今後のスキー場の生き残りに影響

15-16シーズン上期 : 42千人

75%増加

19-20シーズン上期 : 74千人

めいほう降雪機

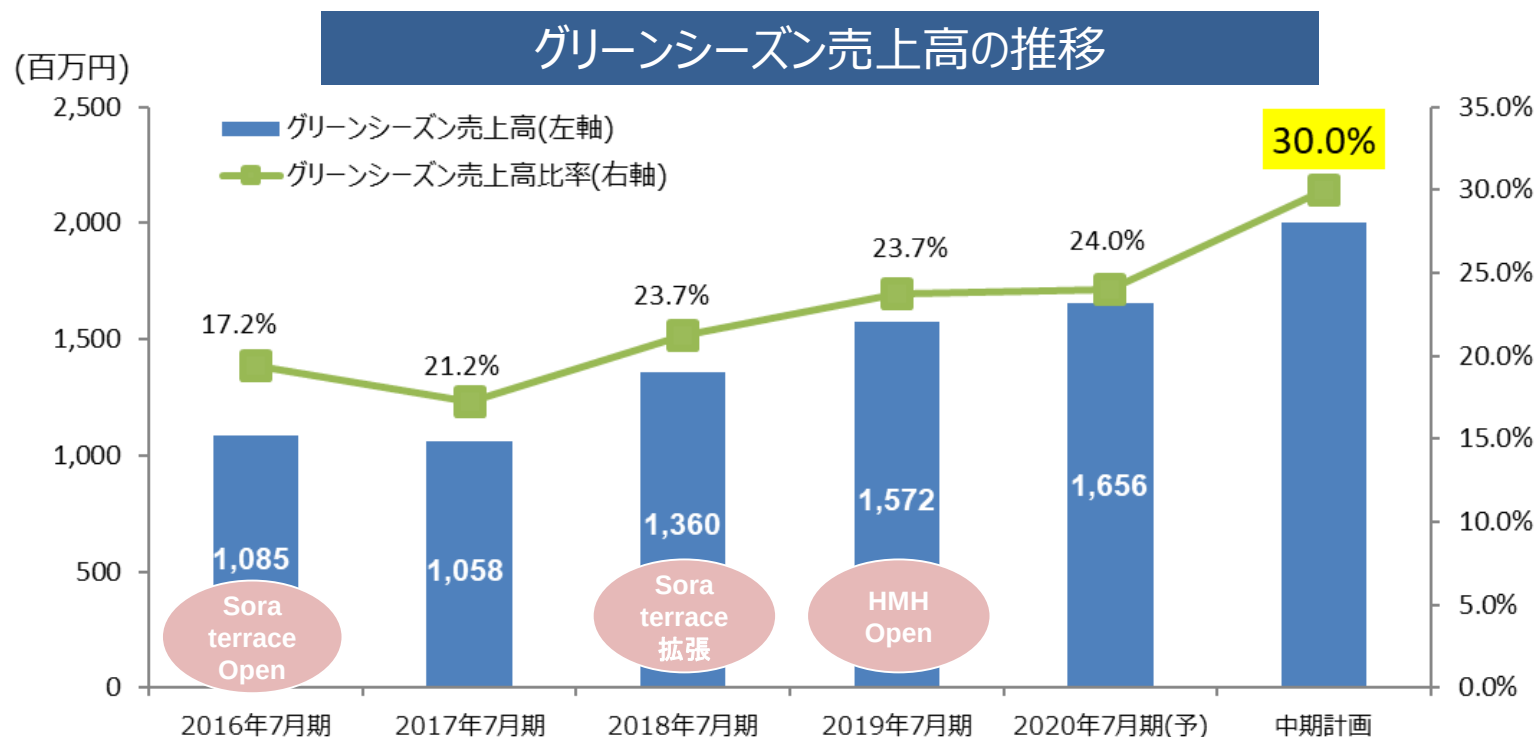


15-16シーズン上期 : 54千人

27%増加

19-20シーズン上期 : 70千人

- 竜王では2015年10月にSORA terraceをオープンし、来場者数は9千人(15/7期)から98千人(19/7期)まで増加
- 山頂テラスのノウハウを横展開し、白馬岩岳マウンテンリゾートではHAKUBA MOUNTAIN HARBOR(HMH)を2018年10月に開業。来場者数は34千人(18/7期)から91千人(19/7期)まで増加
- グループのグリーンシーズン売上高は1,085百万円(16年7月期)から1,572百万円(19年7月期)まで増加



成長戦略 ～グリーンシーズン投資～

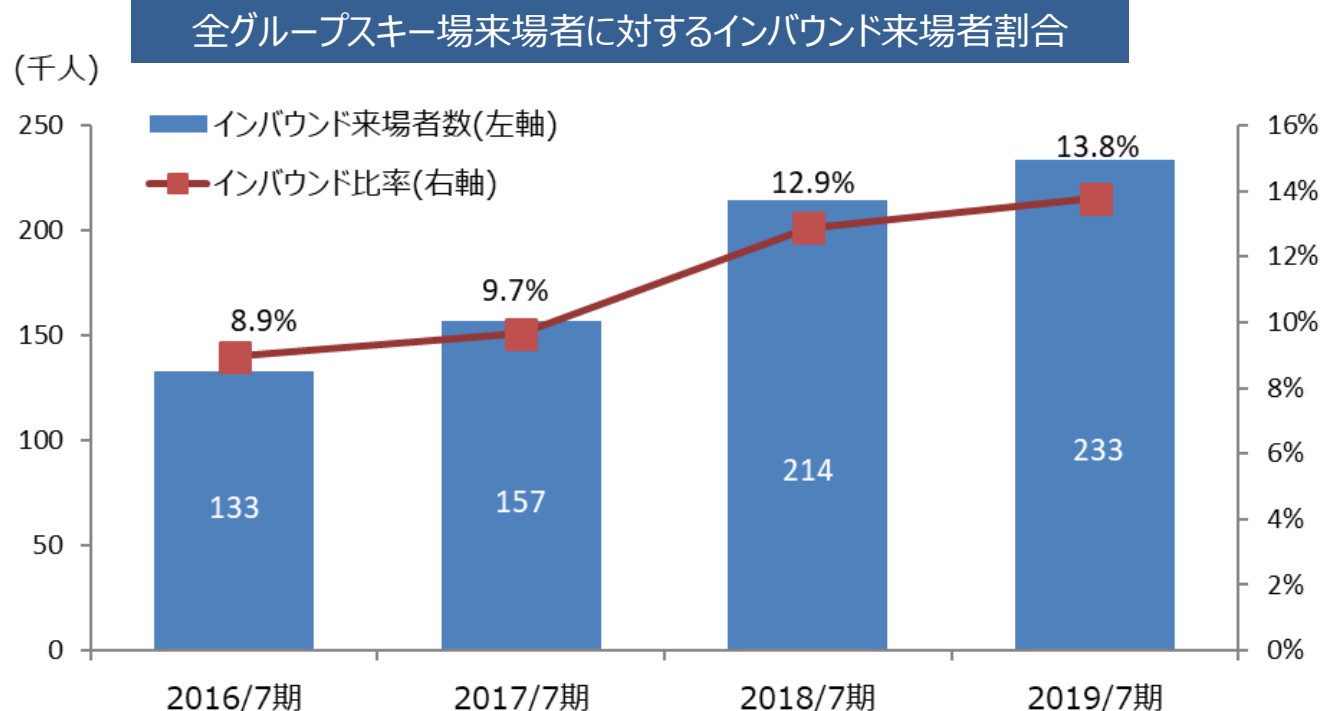
竜王 Sora terrace



Hakuba Mountain Harbor



- HAKUBA VALLEYエリアは、これまでのオーストラリア・ニュージーランドエリアだけでなく、引き続き台湾・中国・東南アジア圏からの集客に注力。Epic passとの提携も継続し知名度向上を目指す
- ソフト面では外国人向けのスクールやサービス等、地域の外国人とも連携しながら改善を継続
- スキー場ベースエリアにおける大型ホテルやアコモデーション不足には、地域連携し、中長期的に解決



1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. 成長戦略

P. 17

4. Appendix

P. 24

HAPPY TRIANGLEの形成

- 貴重な【自然】を最大限活用し、非日常的な空間・サービスを提供し、
- スキーヤーに関わらず多種多様な【顧客】が訪れ、
- スキー場を含めた【地域社会】全体が潤っていくことが最大のミッション

自然の活用・自然との共存

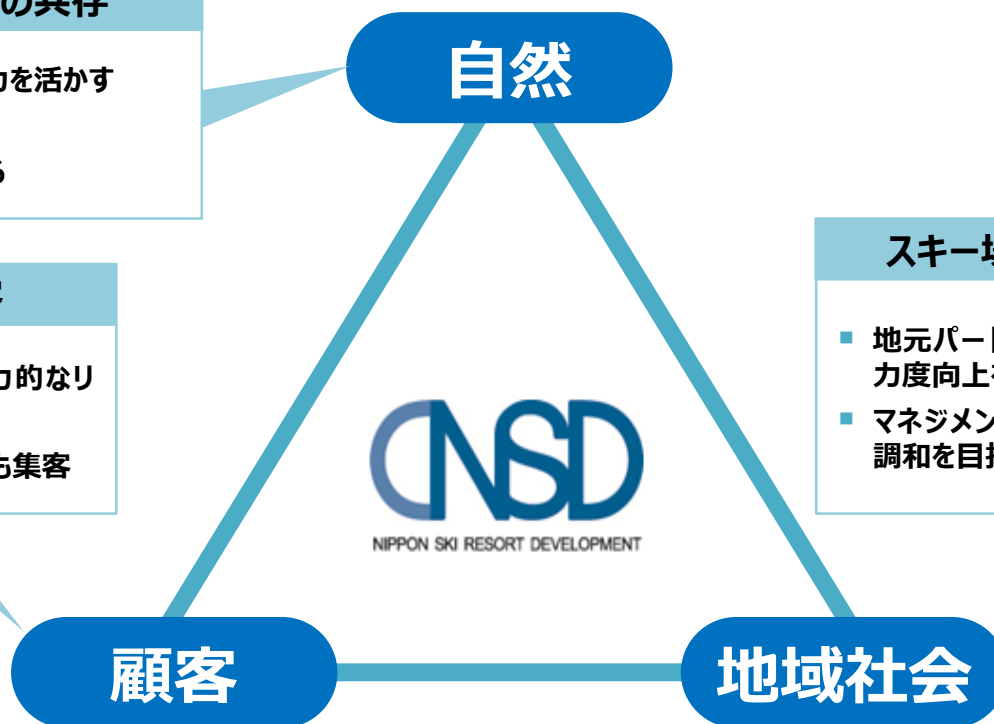
- 冬だけでなく四季折々の魅力を活かす
- 貴重な自然を次世代へ繋ぐ
- 自然の脅威から、顧客を守る

様々な客層を集客

- ノンスキーヤーにとっても魅力的なりゾートづくり
- 国内だけではなく、海外からも集客

スキー場を基点とする地域活性

- 地元パートナーと手を結び、スキー場発の魅力向上を目指す
- マネジメントのローカライズにより、地域との調和を目指す



ハンズオン型の再生・運営

惜しみなきノウハウ提供

データ重視

競争ベンチマーク

顧客目線

プロ人材の派遣・育成



ローカル人財

現場を知悉

地元コミュニティへのアクセス

地方創生へ寄与

連携

- 地域おこし
- 特産品拡販
- エリア集客

活性化

- 施設・設備への投資
- 雇用拡充
- 中長期的コミット

着実な成長

内的成長

グリーンシーズン

インバウンド



外的成長

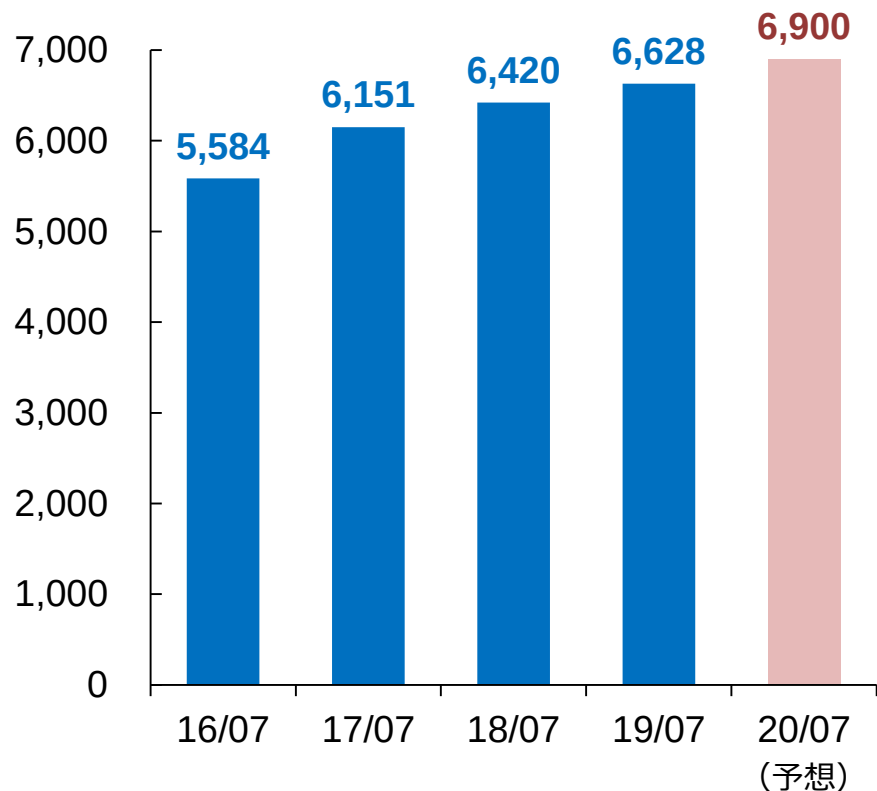
M&A

当社グループのスキー場

	HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場	竜王スキーパーク	川場スキー場	HAKUBA VALLEY 八方尾根スキー場	HAKUBA VALLEY 岩岳スノーフィールド	HAKUBA VALLEY 柵池高原スキー場	めいほうスキー場	菅平高原スノーリゾート
								
グループ化	2006年9月	2009年11月	2010年10月	2012年11月	2012年11月	2012年11月	2014年10月	2015年11月
立地	白馬エリア (長野)	志賀エリア (長野)	沼田エリア (群馬)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	奥美濃エリア (岐阜)	上田エリア (長野)
標高 山頂-山麓	1,550-830(m)	1,930-850(m)	1,870-1,290(m)	1,831-760(m)	1,289-750(m)	1,680-800(m)	1,600-900(m)	1,650-1,250(m)
総面積 (当社所有面積)	78ha(35ha)	95ha(11ha)	60ha(0.1ha)	200ha(2ha)	125ha(10ha)	156ha(0.4ha)	96ha(-ha)	175ha
リフト本数	8	13 + ロープウェイ1基	5	24 + ゴンドラ1基	9 + ゴンドラ1基	19 + ゴンドラ1基+ ロープウェイ1基	5	19
来場者数 (2019/07期ウィンターシーズン)	93千人	222千人	146千人	396千人	119千人	285千人	188千人	239千人
ゲレンデ特徴	■ 北アルプスを望む雄大な景観	■ 166人乗りロープウェイ ■ 幅広いゲレンデ	■ 都心から2時間圏内 ■ 良質な雪質	■ 長野オリンピックのアルペン競技会場、スキーヤーのメッカ	■ 全国岩岳学生スキー大会が有名	■ 柵池自然公園の散策、トレッキングなど夏季営業も盛ん	■ 名古屋中心部から2時間圏内、良質な雪質	■ 首都圏から日帰り圏内に立地しアクセス良好
主要な客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	首都圏からのバスツアー利用者	首都圏からの日帰り顧客	初心者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	初級者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	名古屋圏、関西圏のファミリー及び幅広い層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層

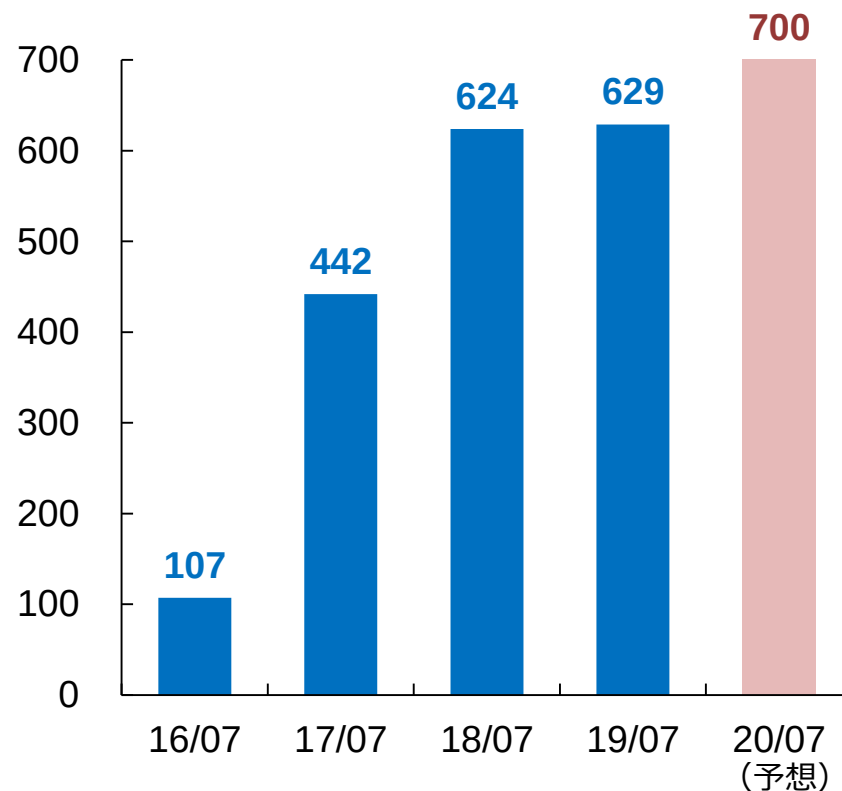
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



当社が支援しているアスリート6名



小野塚 彩那 選手
【スキー フリースタイル】

2014 ソチオリンピック
スキー女子ハーフパイプ銅メダル獲得
2017 X GAMES ASPEN 銀メダル
2018平昌オリンピック
スキー女子ハーフパイプ 5位
2019 FWQ Freeride Hakuba
優勝
2020 FWQ Freeride Hakuba
優勝



原 大智 選手
【スキー モーグル】

2016 World Cup Tazawako
モーグル競技4位
2016 World Ranking8位
2018 平昌オリンピック
スキー男子モーグル 銅メダル
2019 World Cup Canada 銅メ
ダル
2019 世界選手権 銅メダル



岩淵 麗奈 選手
【スノーボード フリースタイル】

2018 XGAMES
スノーボード女子ビックエア銀メダル
2018 平昌オリンピック
スノーボード女子ビックエア4位
2019 World Cup Italy
スノーボード女子ビックエア金メダル
2019スノーボード女子ビックエア
年間チャンピオン
2020XGAMES ASPEN
ビックエア銅メダル



川村 あんり 選手 ★
【スキー モーグル】

2018 全日本ジュニアスキー選手権総合2位
2019 National Mogul
Championships 銀メダル
2019WorldCup ルカ大会
銀メダル



近藤 心音 選手 ★
【スキー フリースタイル】

2018 ニュージーランドオープン
スロープスタイル女子 銀メダル
2018世界ジュニア選手銅メダル



平林 安里 選手 ★
【マウンテンバイク】

2018 Coupe de Japon series MTB
ジュニア総合チャンピオン
2019 全日本U23クラスMTB優勝4連覇

日本スキー場開発はアスリート支援を通じて
スキー文化の発展に貢献します